

「えっ！！先進国の中で癌死亡率が 上昇しているのは日本だけ！！」 ～ 早期発見！乳がん検診を受けましょう！～

10月はピンクリボン月間（注1）です。

平成21年10月10日（土）沼津市の“健康まつり”（サンウェルぬまづ）の中の「乳がん早期発見キャンペーン」

（主催：聖隷沼津病院内患者会おしゃべり会 共催：沼津市保健センター：聖隷沼津健康診断センター）

にて『乳がん検診と診療の流れ』と題して伊藤孝（健康診断センター所長）が講演を行いました。

会場は興味深く、真剣な表情の聴衆で溢れ、活発な質疑応答も行われました。



講演では、「部位別の癌死亡原因で30代～60代までの第1位を占めているのが乳がん。

先進国の中で死亡率が上昇しているのは日本だけ、他の国では、罹患率（がんになる確率）は上昇しても死亡率は減少している。理由は受診率が高く早期発見し、治療できるからだ。

日本の受診率は約20%、欧米は70～80%、韓国は65%以上。いかに低いかが分かる。

治療の進歩、マンモグラフィの導入も進み、欧米と遜色ない状態になってきている。

足りないのは啓蒙活動。受診率を上げることが必要であり、問題解決の道だ。その努力は行わなければならない。」と述べました。

最後に「早期発見すれば乳がんは怖くない、乳がん検診を受けましょう、時々自己検診をしましょう。」と締めくくりました。

そのほかにマンモグラフィ車の見学とマンモグラフィ認定技師（診療放射線技師 堀田麻衣）による検査デモが行われた。当センターでは、啓蒙活動の強化に努め、受診率の向上を祈っています。

（文責 法人本部事務局 事業企画室 笠原典彦）

※ この情報はナショナルマンモグラフィデー（注2）にホームページにアップされました。

マンモ検査デモ →

マンモグラフィ車 ↓



注1. ピンクリボン運動（1980年代：アメリカ）は、乳がんで若くしてなくなった女性の母親が、残された家族と一緒にピンクリボンを作ったのが最初とされている。乳がんの啓蒙活動。日本では、10月のピンクリボン月間に東京タワーやレインボーブリッジなどをピンクにライトアップするなど注目を集めているのもこの啓蒙活動の一環。

注2. ナショナルマンモグラフィデー（1993年：アメリカ制定）は、10月第3金曜日にアメリカでは、女性が無料でマンモグラフィが受けられるようにし、受診環境を整えている。